

2017

JAHFA
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME

論壇

Contribution to
JAHFA



プリウス誕生20年を 振り返り

トヨタ自動車株式会社
取締役会長

内山田 竹志

1. はじめに

トヨタ自動車は1997年の12月に世界初の量産ハイブリッドカー「プリウス」を発売し、今年で20年という節目を迎えることができました。

本年1月にはトヨタハイブリッドカーの世界累計販売が1000万台に到達するという節目も重なりました。

この場をお借りして、20年を振り返るとともに、支えていただきました全ての関係者の皆様にお礼を申し上げます。

2. 21世紀のクルマ開発のスタート

21世紀に向けたクルマづくりをスタートしたのは1993年に遡ります。当時の豊田英二会長の「従来の延長線上にないクルマを考えるべき」という提案をきっかけにして「G21」というプロジェクトチームが発足し、検討を開始しました。

与えられたミッションは2点。「21世紀のクルマをつくること」、そして「トヨタのクルマの開発の仕方を変えること」でした。

「21世紀のクルマとは何か」の答えを出すために、21世紀のクルマ社会が抱えるであろう課題について考えました。「安全」や「環境」、「資源」、「高齢化」、「女性

の社会進出」など幾つもの課題がありましたが、その中から、「環境」と「資源」を選びました。

なぜなら、この2つのテーマはスケールが大きすぎて、当時は真正面から取り組むメーカーがなく、ならば、我々トヨタがチャレンジしよう、と奮い立ったわけです。長いスパンで考えなくてはならない地球規模のテーマであるからこそ、やりがいも感じました。

3. ハイブリッドでの挑戦

「環境」はCO₂やNO_xの低減であり、「資源」は将来の枯渇が危惧された化石燃料の使用抑制であり、双方を解決する手段として導いた解がハイブリッドシステムでした。

ところが当時、社内では先行開発も途中段階で要素技術が完成しておらず、コストも大きなネックでした。しかし、「ハイブリッドはいつかはやらなければならない技術であり、たとえこのプロジェクトが日の目を見ない結果に終わったとしても、いずれ本格的に取り組む必要が出た時に大きなアドバンテージになり、トヨタや社会のお役にたてる」と思い、腹を括りました。

実は、ハイブリッドシステムは100年近い歴史があります。開発当初は世界に数多く存在するハイブリッド

技術を徹底的に調査しました。

その中から、クルマに適用できるものを絞り込み、最終的にはプラネタリーギヤとモーターだけのシンプルな構造を選びました。

なぜなら、ソフトウェアの開発は苦勞することは明白でしたので、メカニズムはシンプルにしておきたかったからです。プラネタリーギヤはオートマチック車でいろいろ使われていますし、モーターは100年以上の歴史があります。ソフトは複雑化しても質量は増えないため、難しいものは全て制御系に持っていこうという考えでした。

4. 1995年東京モーターショーへ出展

試行錯誤を繰り返し、1995年の東京モーターショーに「プリウス」(「他に先駆けて」という意味のラテン語)という名でコンセプトカーを出品し、と同時に、社内的には1997年に発売することを決定しました。それからの2年間はまさに技術の成熟と刻々と過ぎる時間との戦いでした。

技術的には限られたスペースに出力を損なわずにどうバッテリーを収めるか、また、クルマの保有期間も長期化しており、一定の期間が過ぎても十分な残量を維持できるバッテリーをどう開発するかが課題でした。

また、制御ソフトの開発にも苦勞しました。ハイブリッドコンピューターのもとにエンジンやバッテリー、モーター、ブレーキなどを制御するそれぞれのコンピューターを連動させ、それらを正確に協調させることが要求されましたが、毎日トラブルの連続でした。

実は東京モーターショー出品車から1ヶ月遅れで完成した量産用の試作車は、45日間動かないという厳しい現実がありました。

5. プリウス発表・発売

これまでにはない「新しいクルマをつくる」というチャレンジは苦勞の連続でしたが、関係部署が心をひとつにして「トヨタを変えてやろう」という気概で取り組んだ結果、1997年10月に、「21世紀に間に合いました」というキャッチコピーで発表し、2ヶ月後の12月から販売を開始しました。

発売当時は「ハイブリッド」という言葉は世間に全く馴染みがなく、乗っている人は「オタク」だとも言



プリウス(初代)

われた時代でした。

そのような未知のクルマに期待を寄せ、初代のプリウスにお乗りいただいたお客様には、心からの感謝と敬意の意を評したいと思います。

また、当時は多くの自動車メディアやジャーナリストの方々にも応援をいただき、大きな励みとなりました。本年、「プリウス誕生20年」という節目を迎えることができましたのも、プリウスとハイブリッド車をここまで育てていただきました全てのお客様、関係者の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

6. 最後に

ファミリーカーを開発したいと夢見てトヨタ自動車に入社しましたが、創業の精神である豊田佐吉翁の「上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙げべし」、「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」と、豊田喜一郎の「日本人の頭と腕で自動車をつくる」との先人の想いを、初代プリウスの開発で少しは体現できたことが、何よりも嬉しく、誇りに感じるころであります。

今後も地球環境問題の解決に貢献できるよう「もっといいクルマづくり」への挑戦を続けていきたいと思っています。

どうぞこれからのトヨタにもご期待ください。